

(午前10時 4分 開会)

水口委員長 ただいまから駅前再開発特別委員会を開催します。

理事者からごあいさつをお願いします。

竹本助役。

竹本助役 おはようございます。

駅前再開発特別委員会を開催いただきましてまことに恐縮に存じます。

本日の案件といたしましては、千里丘西地区市街地再開発事業並びに正雀駅前の整備構想の取り組み状況につきましてご報告かたがたご協議を相煩わしいと存じております。どうぞひとつよろしくお願いを申し上げます。

水口委員長 あいさつが終わりました。本日の委員会記録署名委員は、阿部委員を指名します。

それでは、本日の案件は、ご案内のとおり、千里丘西地区市街地開発事業の取り組み状況についてほか1件でございます。

それでは、まず最初に、千里丘西地区市街地再開発事業の取り組み状況について、理事者から説明をお願いします。

小西都市整備部長。

小西都市整備部長 おはようございます。

議員の皆様におかれましては、大変お忙しい折、駅前再開発特別委員会を開催賜りましてまことにありがとうございます。

まず初めに、本日出席させていただいております職員のご紹介をさせていただきます。

私の隣におりますのが都市整備次長兼都市政策課長の北野でございます。続きまして、都市政策課参事の山脇でございます。続きまして、主幹の森川でございます。続きまして、まちづくり支援係長の吉田でございます。

それでは、本日の案件であります千里丘西地区市街地再開発事業の取り組みについて、ご報告させていただきます。

本地区につきましては、JR千里丘西口駅前約1.5ヘクタールを再開発するために、地元商業者の皆様方が中心となりまして事業推進に取り組んでこられました。まず、これまでの主だった経過について、ご説明を申し上げます。

昭和61年1月にまちづくり協議会が設立され、建設省の補助採択を受けて、昭和62年度に基本計画調査を実施いたしました。そして昭和63年3月には事業の推進母体であります準備組合が発足し、同年度に事業推進調査を実施してまいりました。その後、組合施行の事業推進に欠かせない事業協力者の選定作業審査委員会を設置して、企画提案方式によってまいりましたが、平成3年5月、バブル崩壊による経済情勢の急激な悪化により期待しておりました事業協力者の選定が不調となり、事業推進する上で大きな打撃を受けたところであります。

このような状況下で今後のまちづくりをどのように進めていくか役員会で協議を重ね、経済情勢を見きわめながら引き続き事業推進に向けて活動を継続することになり、その年の6月に活動拠点として現地事務所を開設いたしました。

なお、事務所につきましては、平成9年3月に拡幅事業による立ち退きで移転をいたしました。

そして、新たな事業コンサルの協力を得まして、基本構想案の作成を初め事業モデルの検討を行い、都市計画決定に必要な資料の整理に取り組んでまいりました。

また、平成5年から6年にかけて地区内権利者の意向調査を実施し、その結果につきましては、平成7年11月の当委

員会でご報告させていただいたところですが、権利者の再開発事業に対する機運は依然として高いものと言えない状況でありました。

また、事業推進に重要な役割を果たすデベロッパーについてであります。これまでコンサルを通じてゼネコンを中心に数社当たってきましたが、大変厳しい状況であります。好景気の時代と違い、計画決定がなされ事業化の目処が見えない限り参画は難しいと伺っております。

以上、これまでの活動経過を簡単に報告申し上げますが、今後、JR千里丘西口駅前のまちづくりをどのように進めていくか、大変重要でありかつ極めて難しい課題であります。景気低迷が続く中、権利者の方々の不安が高まり、事業に対する機運が以前にもまして低下している状況下におきまして、事業推進のための方策を模索いたしているのが実情であります。

また、本地区におきましては、千里丘ガード及び千里丘三島線拡幅事業という大きなまちづくりを進めております。平成3年11月に事業認可がなされ、立ち退き交渉もやっと約50%を超え、早期着工と用地交渉の目処が強く望まれるところであります。

拡幅事業と再開発事業が同時に一体となって進めることができれば、より好ましいまちづくりに寄与できるわけですが、両事業の進捗には大きな開きがあり、現状ではとても難しいと判断しております。

したがって、拡幅事業を最優先課題として取り組み、面整備であります再開発につきましては、一定用地買収の目処が見える時期を目標に事業推進に向けて活動を展開していくことが必要であると考えております。

ご承知のとおり、再開発事業は多くの権利者を一気に再開発という土俵に上げなければなりません。特にこの地区は権利者の数が約140名とたくさんおられ、権利関係も大変複雑であり、敷地の3分の1を所有されている大地主が依然として非協力的な状況下で事業を動かすことは困難であります。何とか権利者のご協力を得るための努力を行ってまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

水口委員長 説明が終わりました。

この際、質問がありましたらお受けいたします。

野口委員。

野口委員 最近の動きが目に見えないということなんです。いろいろ担当としてもご苦労を今の取り巻く状況も要因としてあると思うんですけども、私も質問を何をしたらいいのかちょっとはつきりまとまん部分もありますけども、思っている疑問点を幾つかちょっとお聞かせをいただきたいと思います。

一つは、千里丘西ニュースNo17号、平成9年6月25日発行ですけども、そこで9年度総会がやられて予算も承認されているわけですね。平成7年11月に本委員会にその間取り組んでこられた意向調査の結果の報告があったという今説明がありましたけども、この2年余りですね、森川主幹を中心にしているいろいろ大変だと思うんですけども、こういう予算の執行ぐあいがどういう形でやられてきたのか1回お聞かせいただきたいと思うんです。例えば平成9年度の予算で見ますと、430万円の準備組合の予算が組まれています。その中で支出を見ますと、調査研究費が約100万円組まれていますね。当然市から毎年100万円の補助

金が出されていますけども、この辺の平成7年度、平成8年度、途中であります平成9年度、その辺のいろいろご苦労ある中でどう予算執行されているのか1回お聞かせをいただきたいと。

それと、ガード拡幅に絡む話ですけども、今、50%用買ということで説明がありました。拡幅の工事の絡みで用地買収の目処がついた時点で再開発の方も動いていきたいという趣旨の説明があったと思うんですけども、そうするならば拡幅工事の用地買収の現局面について、若干ご説明をいただきたいと。旧の準備組合の事務所の前の道を挟んで北側から産業道路までが、いろいろ話は聞いておりますけども、まだ用買はされてないということで、地元の方の見方ですれば、どここのところがどうなるか、それを全部注視をしているというお話なんです。そういうこともありますけども、その辺の用買の状況を一度この機会にお知らせをいただければと。

それと、長引く不況の中で、ご商売されている方も摂津市の財政状況も含めてこの再開発を進めていくための以前と比べた要因があるわけですね。そういう点で最近140名の権利者、また権利者になってないけれども、周辺の商店の方、住まいされている方々の受けとめ方といえますか、その辺についてつかんでおられれば、その点もちょっとご説明をいただきたいと。

水口委員長 助役。

竹本助役 ただいまご質問いただいた中で、計画街路推進室の担当理事が本日不在でございますので、詳しいデータがございません。私の方に報告の受けている内容で、現在のガード拡幅の用地の買収とその後の工事の関係について、簡単に概略申し上げたいと思います。

現在約50%、前後というように聞いておりますけれども、一番問題でありましたちょうど千里丘のガードを西側へ越えて、その左手側のところの自転車屋さんとか、それからレストランがありましたところ、この部分がおおむね買収の見込みが立ちました。あと診療所が一つあるわけですが、その二つが解決できますならば、一定話し合いに入っていけるという見通しを持っておりまして、今その方に精力を傾注しているところと。これができ上がりますと西側の仮設的な道路をつける中での工事の着手が可能になってまいります。

一方、東側の方では、一番大きなものといましては、パチンコ屋さん、この買収ということもありまして休業中ではありますが、これについての権利者の交渉が一定段階まで進行いたしました。まだ買収というところまでは行っておりませんが、今までは全くそういう状況じゃなかったわけですが、それが話ができる状況にまで入ってまいりました。そういうことでこれについてもかなり早い時期に買収交渉に入れて解決の可能性も出てまいりましたので、東側についても一定工事を施工することが可能な部分が生まれてまいっております。

そこで、大阪府の方には、平成10年度のできるだけ早い時期に予算の、大阪府も非常に財政的に苦しい状況が続いておりますので、そういうことも勘案する中で、我々の方といたしましては、なるべく早く工事に着手をしていただいて、そしてほかの用地買収が終われば、できるだけ早い時期に完成を目指してほしいということをお願いをいたしてございまして、大阪府としても平成10年度には着手していく、東側から行くか西側から行くかはともかくといたしまして、着手を

していけるように努力をしたいというところまでの感触を得ております。

現在のところでは、その程度が状況でございます。9月、12月の本会議で220平方メートルということを申し上げておいたと思います。ご記憶であろうかと思えます。その分が一定進捗したということでございます。これはちょっと私が報告受けていることで、あらあらでございますから、少し誤りがあるかもしれませんが、ひとつご了解をお願いしたいと思います。

水口委員長 森川都市政策課主幹。

森川都市政策課主幹 3点目の方から答弁します。

権利者の最近の受けとめ方といいますが、平成5年から6年にわたりまして地権者1軒1軒回りましてアンケート調査をとりまして、その結果につきましては、平成7年の委員会でご報告させていただいたんですが、そのときに一定の私ども検証いたしまして、その時点をこのようにまとめさせていただきました。アンケート調査の結果、権利者の全般的な意向としまして、再開発事業が必要であると、潜在的にそういう意識を持っておられる方が大多数持つておられると。しかしながら、事業の難易性、また事業主体のあり方が不十分であるということで事業に対する機運は余り高くないと、そういうような判断をいたしました。

最近であります、大変景気が低迷いたしております。権利者の再開発事業に対する不安が増大しておることは事実だと思います。例えば大口権利者がおられますが、これまでの折衝の中でこういう意見を言っています「再開発事業をやり、仮にやって床を取得してどう活用するんだと、この床の担保性はどういうところに信頼すればいいんだ」と、そういう意

見もあるわけなんです。これは権利者としては当然だと思います。大阪府下再開発事業が約30進められておりますけれども、大変事業性の効果といいますが、そういうことに対する不安が高く、事業が暗礁に乗り上げているところがたくさんございます。そんな中で事業者の皆さん方はもちろんのこと、住宅部門におきましても、果たして再開発事業ができた場合、我々どうなるんだと、そしてまた、特に高齢者の方がたくさんおられますので、その辺の不安は今まで以上にあると、そういう受けとめ方をいたしております。

それと、第1点目の市からの補助金、そしてその活用内容であります、まず平成9年度に準備組合の予算といたしまして432万2,000円の収支を上げております。この数字は、平成9年3月に拡幅事業によります以前の事務所を立ち退く際の立ち退き費用を大阪府からいただきました。その金額が上乘せされておりますので従来よりも200万円近い金額が予算に上がっております。

補助金、収入の中身でありますけれども、市から毎年100万円、そして商工会からも助成金としまして20万円、また平成8年度までは商業協同組合から一部20万円の助成金をいただいております。平成9年度からはそれはなくなりましたが、その予算をできるだけ有用に活用するというので、年間、勉強会とか、そしてまた視察というようなことを行ってまいりました。支出の相当分を占めるんですけれども、やっぱり事務所運営費、これが6割ぐらい、年間60万円ぐらいの費用を使っております。ただ、予算の中身では、事務費として287万2,000円、平成9年度は上げておりますけれども、これは収支を整える意味もありましてこういう大きな数字が上がっ

ておりますが、大体60万円ぐらいでおさめるようにいたしております。平成9年度におきまして、年度内に一度講演会等を開きたいなと、そういうように考えております。

非常に本来ならばもっともっとやっぱり事業収支が大きくなっているいろんな調査も必要なんですけれども、現時点ではまだそこまで行きませんので、できるだけ支出を抑えながら、今までのやってきたいろんな調査をもとに事業推進が図れるように行ってまいりたいと、そういうように考えております。

水口委員長 野口委員。

野口委員 助役の方からご答弁をいただいたのがガード拡幅の進捗状況ですけども、西口側の千里丘診療所の話し合いがつけば仮設道路の工事も可能になるんで、そういう方向で折衝しているというお話なんです。東口側のパチンコ屋の南側のお宅が1軒ありますけども、当然あそこも正雀停車場線に通ずる道路の関係で必要な場所でありまして、そういう問題だとか、西口側もいわゆる三角地ですね、9番地のとこですね、その辺も残っていますし、千里丘2丁目のパチンコ屋の一带も残っているということで、その辺がいろんな要素が絡まってきているだろうと思いますけども、特に西口の方はいろんな折衝などしながら動いているだろうと思いますけども、その辺の目処ですね、どういう中身がネックになっているのか1回ちょっと聞かせていただければと。担当室長がおられないのでご答弁できないかもわかりませんが、その辺はご答弁できる範囲で結構ですから。

それと、森川主幹の方からいろいろお答えをいただいたんですが、確かにご苦労されているので私の方もなかなか言いにくい面もあるんですけども、今の状況

に至って駅前再開発を進めるべきか、やめるべきか、いろんな選択肢、基本的な問題があるかと思うんですけども、それを置いておきまして、この前、大型店の全国的に出店ラッシュの問題で、NHKでは吉田栄作が主人公で流通戦争という番組がありまして、事前にいろいろ聞いていましたので1回だけ見たんですけど、テレビですからおさまりはいいわけですね。ときわ店という大型店の改装にあわせて、それを買収したメーカーが地元のときわ店の店長を引き抜いて、そこで駅前商店街の活性化政策を逆に大型店の側から提案し、選挙もあったりしてそこでおさまって、これからということで番組は終わりましたが、いろいろ新たな要因があって地元商店もすんなり再開発をするかどうかというそっちの方向での勉強だとかいろんな検討をしようということにはなっていないような感じなんですけど、ただ、市もそうですけども、地元の商店の皆さんも、結果は別にしてお互いに調査研究だとか勉強をしなければこの問題は進まないというふうに思うわけですね。

東口側もいろんな状態がありましたけども、一定そういう勉強だとかを含めてさまざまな疑問点なども解きあかしながらそれなりに取り組んできたというふうに思っているわけですけども、だから、今は不安な状態ですけども、その中でせめて選択肢を決定するためにいかに勉強していくかと、例えば100万円の予算が少なければ200万円にするとか、金額は別ですけども、ふやしていただいてもっと違った勉強もできますし、そういう点、地元権利者とか地域の皆さんがより判断できるようなそういう進んだ取り組みが私は必要じゃないかなというふうに思うわけですけども、その点は担当としてど

んなものでしょうか。ただ単にいろんなニュースを見させていただいたら、講演会だとかそういうことが主になっていると思うんですけども、各地とも状況は変わりませんから、千里丘駅の乗降客数は吹田駅よりも多いわけですから、だから、本来的には、今の不景気という問題は別にして人数という点では多いわけですから、だから、いろんな判断の仕方が僕はあると思うんです。だから、そういう発展的に物事が判断できるような勉強会、取り組みをやっぴりやるべきだというふうに僕は思います。根本問題は別ですよ。そういう点でちょっと担当者の受けとめ方、ご意見といたしますか、それをちょっと一度お聞かせをいただきたい。

水口委員長 森川都市政策課主幹。

森川都市政策課主幹 商業問題を考える際に、私も商工会と絶えず意見交換をしておるんですが、あの区域は再開発ありきという中での動きを今までずっとしておりました。まちづくりのあり方は決して再開発事業だけじゃないんです。いろんな手法がありまして、区画整理方式もあるし、商店街だけの活性化も、いろんな通産省あたりからのメニューが出ておりますので、そういうメニューを我々行政、商工会の中でのいろんな議論をしてきた経緯はあります。しかし、それを地元で商業者の皆さん方とこういう手法を一緒に考えましょうというような試みは今までしておりません。私個人的には、こういう試みも必要かなと思うんですが、ただ、今までは再開発事業ありきと、その事業メニューが決まっておりましたので、その中でどうするんやというようなことばかりをやっぴり考えてきたのがそういう選択肢を狭めてきた経緯があることは事実であります。

この辺の商業の問題を一度役員会の中

で違った視点から考えられるような意見を出してみたいと。それは常々今までも考えておったことなんですけれども、なかなか踏み込めなかった。通産省あたりからいろんな最近は特に中心市街地の空洞化というようなことが言われておりまして、メニューが出てきております。ただ、その手法を勉強して本来の再開発事業がいい形で方向転換できるならよろしいですけれども、結局実が結ばない形になるというような懸念もありますので、その辺は慎重に一度十分検討しまして、議論の土台に乗れば乗せていきたいというように考えております。

水口委員長 竹本助役。

竹本助役 ガードの拡幅の完成時期はいつかということをございますけれども、我々が担当いたしておりますのは、これのうちの用地買収を委託を受けまして取り組みをいたしておるわけですが、現在のところ50%前後ということまで進捗いたしまして一定の仮設道路などは先ほど申し上げましたように着工が可能なところまでやっどこぎつけたというところをございます。これから先の難航している用地権利者は大部分がその地域で商業などを営んでおられる方々で、それぞれの意向では、できるだけやはり現地点に近いところで事業を継続したいという希望が強うございます。そういったことに何とかするために一定の代替土地を確保できる見通しは立てておりますが、全体を賄うにはとても足りないという状態をございまして、いずれはやはり立ち退きという形をお願いしなければならない方々がかなりあるという状況でございますし、また中には過去の土地の争い問題がありまして裁判にまで行きそうなケースも一部ございます。そういったところを解きほぐしながら買収を進めていくと

いうことに相なりますので、非常な難航が予想されます。しかし、それを待った上で仕事ということになりますと、これはもう相当向こうになってしまいますので、先ほど申し上げたようなことをお願いしておるわけでございます。

この事業といたしましては、本会議でも何度もご答弁申し上げておりますように、最初の5年間の事業認可の期間は平成9年に満了いたしております、この都市計画の事業認可と言いますのは大体5年しか認可をしてくれないそうございまして、5年が終了いたしまして、昨年の春、2月か3月に新たなまた延長の認可を取りまして5年間事業を継続していくということが府の方で手続が完了いたしております、この事業はあと5年ということに相なるわけでございます。

我々の方といたしましても、一日も早くやはりこれは完成をしていただきたいという思いで用地買収についても精力的に取り組んでおるところでございまして、今のところまことに申しわけございませんが、いつが完成時期であるということが申し上げられない状況であることをご理解いただきたいと存じます。

水口委員長 野口委員。

野口委員 そしたら、ガード拡張の方は問題が別ですから、それで結構です。

その他の問題についてご答弁いただいたんですが、最初の部長のご説明で、平成7年の11月の本委員会後、コンサルを中心にゼネコンにも当たっていただいたと、しかし、参画は難しいというお話がありましたけども、そういうような取り組みをされてきたと。それと関連して言いますと、いろんなご苦労はあるんですけども、市の受けとめ方として、いわゆるどなたか、事業協力者が見つからなければ、この西口の再開発について、ど

うするか、こうするか判断ができないということ大きなポイントで取り組んでおられるのではないかなという気がするわけですね。

前段として、当然駅前再開発というのが従前の権利者の皆さん方がその開発によって生活と営業が改善されるということが当然必要な中身でありますから、そのためには地元の皆さん方の意向調査とかいろんな一緒になって事を進めていく体制内容が前提の問題としてありますけども、そういうふうを感じるわけですね。そうじゃなくて、先ほど申し上げたように、要はよりお互いに勉強していくと、判断できる材料を深めていくと。それで準備組合で事を進めていますけども、極端な場合、例えば三角地とか千里丘2丁目側も含めて千里丘駅周辺のまちづくりをどうしましょうかということで、正雀も手法はいろんなことがありますけども、そういうまちづくりという観点でその地域の設定とかいろんな出方も僕はあろうかと思うんです。

要は、西口のあの状態を現状でよければかまいませんけども、これどうしようかと思っている方が多ければ、そのための勉強会、一緒にどういうまちづくりをつくっていくのかという、住民の皆さん方も勉強していただいて、僕らもそうですけども、いわゆる半専門になっていたって、そこでコンサルのいろんなご意見も聞きながら案をまとめていくと、そこで障害物は何なのかと、各自の権利内容に対してこの計画はどういう影響を与えるのかとかさまざまな違った意味での検討が僕はなされていくだろうと思うんですけども、そのためにはやっぱりお互いに用地があつての勉強が必要になってくるだろうと思うんです。そのヒントはこの正雀の取り組みに僕はあろうと思

うんです、一部ですよ。そういう点でぜひ先ほども担当のご答弁がありましたので、ちょっと一度そういうやり方について、基本は権利者、地元住民と一緒にって事を進めていくと、そういう皆さんも一緒に判断ができる材料を提供していくと、勉強をしていくということを基本にして進めていただきたいと思いますけれども、その点一応要望としてお願いしておきます。

水口委員長 ほかに何かご質問。

三好委員 最初の説明を受けて、今の野口委員からの質問の中でも経過的なことは十二分に把握できたと思うんですが、今、野口委員の最後の質問の中でも出ていましたように、冒頭の説明の中では、千里丘ガードの拡幅に対する用地買収の目処が立った時点で再開発事業に着手したいというようなご説明があったわけですよね。そういった説明を受けている中で今の経過報告を聞いていると、そういった安易な気持ちで本当にこの事業が前に進むのかというのが疑問にあります。

今の森川主幹のご答弁を伺っている中で、今行き詰まった部分の中でこれから手法もいろいろと考えていって、それが出せる段階まで、煮詰めた段階で権利者と今後の事業の運営を進めていきたいという報告を受けたわけなんですけど、その中で今、平成3年5月に事業協力者が選定不調になってきて、地権者に関しましては、平成5年、6年にアンケート調査をやって、その結果が平成7年にその結果報告がありましたというような報告がありました。そういった事務的なことに対する今日までの努力に関しまして敬意を表しますが、しかしながら、今、暗礁に乗り上げた部分が先ほど言っていた通産省からの事例でもあるような手法関係、この時点の中で、そういったことは具体

的に煮詰められなかったのかなということが非常に危惧するわけなんです。

大阪府下での再開発事業を見てみましても、スプロール地区の再開発ということに関しましては、いろんな今地域のところが着手しだしてしまっていて、そういったところに関しましては、いろんな方法の中でこういった経済が低迷する中でもそれなりの事業の進展も見られてきていると思われまして。そういったところにいるいろいろ視察も行きながら転換をしていくような動きにならんのかなと。

要は何が言いたいのかというのは、こういった大変行き詰まった事業運営の中で、今後いかに進めていくかというのが気になるのと、その意気込みの中で再開発事業で年度計画を立てた中で権利者に対する不安解消のネタというのは、今、現時点で理事者はどういった考え方でおられるのか。先ほど森川主幹の方からは、その手法を模索する中でいろいろとまた提示もしていきたいと言っておりますが、権利者が思うには、やはりそれについて回るのは予算であり、それからそういったアイデアであると思うんです。こういった場合におけば、行政が主導的になってそういったアイデアの提供もしていかなければならない時期に来ていると思うんです。そういう面におきましたら、今の体制も含めてもう一度見直した中でやっぱり進めるべきことやなというふうに思うわけですね。

ちょっと質問がいろいろ飛んでいますが、どないしまんねんということだけが聞きたいだけでありまして、よろしくお願いいたしたいと思えます。

水口委員長 小西都市整備部長。

小西都市整備部長 基本的な今までの点については、森川からご答弁したとおりでございます。



先ほども私が冒頭に言いました、拡幅事業の一定の目処が立つ時期には事業に取り組んでいきたいという報告をさせていただいたわけですが、現在の再開発の取り組みにつきましては、ご承知のように組合施行で進めておられるということでございます。組合施行でいろいろと組合の役員さん等については権利者にはいろいろお話されておりますけれども、なかなか前へ進まないということでもありますので、我々といましては、先ほど質問者にもありましたように、市としての一定の判断をしていかなきゃならないだろうと。これについては事業主体を市施行にするとか、そういう一定の時期には方向転換しながら再開発に取り組んでいきたいというように考えておるわけでございます。

先ほども申しましたように、市の計画といましては、平成14年度事業の拡幅の完成の見合う時期に再開発としての取り組み、できれば計画決定を打てるような状況まで我々としては取り組んでいくと、そういう中で事業主体を組合施行から市施行に一定の時期に切りかえながら、市としての努力をしていきたいというように考えておるわけです。

水口委員長 三好委員。

三好委員 組合施行から市主体の施行に切りかえていくというのは、そういった意気込みは結構ですけど、それを今判断されるのはちょっと理事者としても軽率違うかなという感じで私逆に意見を申し上げさせていただきたいと思います。

市施行に持っていくに至る経過の中でも私が言うていますが、他市でやっているスプロール地区の再開発と言いますが、戦災に見舞われてないような地域の中で、土地を市が購入をして、箱物に対してその地域の権利者が協力をやって

箱物を建てていく、要は一定のこういった方式もありますよ。先ほど森川主幹が言われている、通産省からの事例の中でもいろいろと出てきております。そういった段階を踏んだ中でいろんな形の中で行政として何が協力できるかということをお早急に模索をし、判断をしていく必要があるのではないかなと、こういうふうに思うわけです。

先ほど市に移管するというのは、それは究極の判断であって、それまでの段階を踏んだ中で早いめに結論を出していただき、方向性を見出していただきたいなと、こういうふうに思いますので、これは意見として聞いていただいたらいいと思います。

水口委員長 小西都市整備部長。

小西都市整備部長 先ほどの私の答弁の中で、早急に市施行というように言いましたけれども、これについてはちょっと訂正させていただきたいと思います。

先ほど三好委員から貴重なご意見をいただいた中で、用地買収方式という中身については、内容では二種事業というように考えておるわけです。二種事業については市が先に一定用地を買収しながら権利変換していくということがございますけれども、これについては市の財政事情を考える中で非常に苦しいんじゃないかというような中で、現在の取り組みにつきましては、一種事業のあくまでも東と同様の権利変換で組合施行で取り組まれているのが現状でございます。

そういうようなことで我々といましては、いろいろ今後、事例を勉強しながら、先ほども冒頭に言いました、権利者についてもできるだけ協力願えるように最大の努力をしていきたいというように考えております。

水口委員長 北川委員。

北川委員 いろいろ聞かせていただきましたけども、現実をやっぱりしっかり見きわめないとだめだと思います。というのは、先ほどから何回もおっしゃっていますけど、もう本当に冷えきっているんです。火種も残ってないというような状況なんですよ。それに何ぼ努力をし予算を注ぎ込み、研究会なり研修会なりを持って持てと言っても、これはもう受け皿がはっきり申し上げてないと思います。そこへもってきて一体役員さん今どなたがされているのかよく知らないんですけど、全体の方は、トップの方だけは知っておりますけれども、その中ではっきり申し上げて時代が、私が千里丘へ来てもう40年もなるんですけど、そのときも駅前西口再開発言うてました。40年前から言うてるんですよ。結果的に本当に何がどう進んだのかということ、余り変わってないんですよ。そら一たん燃えました、デベロッパーがついて。それからまたこういう時代が、景気が悪い、バブルも崩壊した、そこへもってきて3分の2ほど持っていらっしゃる大口地権者の方は初めから余り変わっていらっしゃらない考え方の中で、周りでやいやいやいやい言っても、それでも何とかという頼みを持ちながら今日まで来たんだと思います。けれども、本当に今の時点で、ガードの拡幅が動いていますから、それなりにいろいろ話は地元ではやっていますけれども、本当に現実を見たら、それだけの年月がたってしまったから、勢い込んでいた人もお年をめしてもうそれぞれ自分の違う道を選んではいります。会社に勤める方、またはっきり申し上げて、あの西口で今ご商売されている方、何軒ありますか。そして摂津の住民という人はまたない。皆よそのお人ですよ。吹田のお方とか。本気に考えていらっしゃるのかなと、私も

横から眺めてきて思うんです。だから、今の現実がどうなのか、たとえいろいろと予算を注ぎ込んで通産省なりメニューを見せても、さっきおっしゃっていた意見は確かにいいと思います。一応手法はこれから変えていくべきだなと思います。

さっきもおっしゃいましたように、再開ありきで40年も来たんですから、それなら受け皿の人の年齢層も変わっていますし、考え方ももう全く違う。そういう中でいろんなメニューを見せてまた火をつけていくのも、これも一つの方法かもしれませんが、はっきり申し上げて、もうそれをしてもどうなんかなという疑問を持っています。だから、その辺で今後もう一度ガードの拡幅で動いている方もいらっしゃる、そういう人たちの意見も聞き、そしてまた三角地のあのあたりの方も、もう代替地で、小さなお店屋さんには皆こっちのことぶき商店街、あちらの方に移転をされるのが現実ですわね、さっきおっしゃっていました。西本の自転車屋さんにはあの場で5階建てでやるらしいですし、そうかいうてデンスケ食堂さんもこっちに入られます。そういう中でもう違う道を選んでいらっしゃるんですよ。両方かけもちの方。その辺をしっかりと見きわめて市としての一定の判断をもうそろそろつけるべきだと思うんです。もうあれだこれだという方策ばかり考えてんと、一つの判断はどうなるのか知りませんけれども、考え方を改めないで、もうこれは何ぼ火打ち石を打っても火種が出てこない状況に来てます。今また先行きが見えないこの景気でしょう。経済がもう少しやっぱり活性化している時期なら、またということもあるけれども、そら大口権利者がおっしゃっていることも事実だと思うんですよ。担保性がもうないです。だから、そこら辺のことも

考えたら、やっぱりみんなも、たとえ30坪の土地でもそれなりに生きてくるのかということを考えての再開発ですから、できなかつたら、これ提供しようが、床の権利を持っていようが、どうしようもない時代が来ますでしょう。そういうこともしっかり見据えて、一度基本に戻って、どうするべきかを役員さんを含め検討し、そして十分に今の時期に市も全面的に協力して知恵を出す方法を考えてやっていただきたい。私はこれで答えは要りませんが、そういう気持ちを持っていますので、安易な考え方はだめだと、このように思います。その点よろしく願います。要望ですけど。

水口委員長 そのほかに何かご意見ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

水口委員長 じゃあ本件につきましてこれで終わりたいと思います。

次に、正雀駅前整備構想の取り組み状況について、理事者から説明をお願いいたします。

小西都市整備部長。

小西都市整備部長 それでは、2点目の阪急正雀駅前のまちづくりの状況につきまして、ご説明申し上げます。

正雀駅前のまちづくりにつきましては、阪急京都線、府道正雀一津屋線、そして十三高槻線と正雀川に囲まれます約12ヘクタールの区域を対象にいたしまして、平成2年9月に発足いたしました「正雀駅前地区まちづくり懇談会」より、平成4年3月に「快適」、「繁栄」、「利便」を基本理念といたしました提言をいただき、本市といたしましては、提言をもとに平成5年度より3カ年をかけましてまちづくりの整備構想づくりに取り組んでまいりました。

また、調査を進める中で、地元関係者

へのアンケートを実施し、地元意向の把握にも努め、さらに国、府に対しまして正雀駅前のまちづくりの必要性を訴えてまいったところであります。

このような取り組みをもとにいたしまして、地元主導によりますまちづくりを推進することをこれからの基本的姿勢と位置づけ、地元の方々と行政が一体となったまちづくりに取り組むことといたしました。

その第1段階といたしまして、まちづくりのための組織化を「正雀駅前地区まちづくり懇談会」から地元自治会商業団体に対しまして呼びかけをいただき、現在「正雀駅前まちづくりを推進する会」の組織化に向けました発起人会で検討をいただいているところであります。

その取り組み状況といたしましては、発起人会を平成9年4月に発足し、今日まで月1回の割合で開催をいたしているところであります。

その内容といたしましては、懇談会からの提言や整備構想調査等の説明を初め、まちづくりの先進事例の紹介等を行い、地元中心のまちづくりの必要性の認識を深めていただいております。

また、本市といたしましては、具体的な組織化への支援といたしまして、まちづくりのアドバイザー派遣、発起人会に展開をいたしてありまして、昨年12月に豊中市を初め数多くの初動期のまちづくりに参画されております大阪大学工学部の久先生にまちづくりの講演をいただいたところであります。

なお、組織化に向けましたこれからの検討につきましては、学識経験者等のアドバイザーを派遣し、まちづくりの必要性から、ハード・ソフト両面の支援を推進し、具体的な地元主体の組織化を図れるよう地元の理解を得てまいりたいと考

えております。

以上が今日までの正雀駅前のまちづくりに対します取り組み状況であります。本市の当面の目標といたしましては、地元発意によるまちづくり構想が提案されるよう活動を支援し、さらに組織化の強化や勉強会等の開催によりましてまちづくりの必要性を地元の方々に幅広く周知されるための活動を重ねてまいりたいと考えております。

水口委員長 説明が終わりました。

この際、質問がありましたら、お受けいたします。

綾田委員。

綾田委員 部長の説明の中に、国、府に対して今まで要望してまいりましたという説明があったわけですが、これについてどのような形で要望されて、またどのような回答が返ってきたというのをまず1点目に聞きたいということ。

それと、地元発意によるまちづくりを市としては希望しておると説明があったわけですが、私の実家も正雀駅前にありまして、そういう地権者といいたまうか、そういう形になるわけですが、私のお親に言わせると、「このまちづくりのまの字も聞こえてこない、おまえ一体どないなとるんやと、正雀のまちづくりは進んでいるのか」と、これはよく聞かれるわけですが、駅前に住んでながらそういうような意見があるということは、これは非常に私の説明不足かも知れませんが、余り浸透してないというのが現実だと思っております。

逆に駅前の方というのは余りそういう関心を持っておられない方が多いような気がしますし、またその周辺の方がそういうまちづくり云々で機運が高まったと

というようなことも実際現に正雀ではあるんです。そういうところをよく理解されていかんと、周辺の自治会とかそういう方が正雀駅前を何とかせないかんと、このままではあかんでというような声がたくさんある。ところが、駅前の方の地権者というのが余りそういう機運がないというのが正雀地区については私が感じておるところでは現実だと思っております。現に正雀駅前に親が住んでおりますけど、なかなかそういうような物の見方、考え方もしていますし、そのところがやっぱり非常に大変だと思っております。

だから、地元発意によるまちづくりということですが、これはやはりそういう方もどのような形で、正雀駅前まちづくりを推進する会というのはどのような方がメンバーに入っておられて、どのような形で進めておられるか僕ちょっと余りよくわかりませんが、その辺のところをよう考えていかんと、ある程度商店街、自治会単位でやるのもこれは悪いことはないんですけど、なかなかそういういろんな方に理解してもらおうと思ったら、ちょっと無理があると思っております。そういう進め方では、だから、今後どのような形でやっておられるかということもちょっとお聞きしたいと思っておりますし、また手法を変えて進めていくということも考えていかなあかのじゃないかなと思うわけですが、その辺のところをちょっとお尋ねしたいなと思っております。

水口委員長 山脇都市政策課参事。

山脇都市政策課参事 綾田委員のご質問の中で、国、府に対して今までどのような要望をしてきたのかというまず1点目のご質問ですけれども、私も平成5年度、6年度、7年度にかけて正雀駅周辺の調査を行ってまいりました。そんな

中で6年度、7年度につきましては、国、府の補助金をもらいながら調査を進めてきたところでありますが、国、府に対しては、この正雀の駅周辺の整備の必要性を訴えながら調査を進め、また補助をもらってきたところであります。今後、正雀地区を進めていく中では非常にロングランの中で進めていかなければならないということで、まず国、府に対して正雀地区の現状、今後の計画等を認識させるために、どちらかと言いますと、6年度、7年度につきましては、調査の補助をいただいたところであります。

もう1点目の地元発意によるまちづくりが聞こえてこないと、特に駅直近の方から、まちづくりについて、特に聞こえてこずに、周辺の方々の声が、まちづくりが聞こえてくるのではないかとというご質問なんですけれども、先ほど私どもの部長の方からの説明の中で申し上げました、今年の4月から月1回、地元の自治会、また地元商業者団体の方々にお集まりいただきました。当初は自治会4団体、商業団体4団体の長の方にお集まりいただきました。それはまちづくり懇談会の方からの呼びかけで、自治会4団体、商業団体4団体の方々を集まいただきました。そんな中で議論していただいたわけなんですけれども、その中ではやはり今後まちづくりを進めていく中で我々だけではだめだということで、まずそれぞれ自治会、商業団体の中で、特にまちづくりに関心のある数名の方をさらに次回から参画してもらうようにということで、現在17名でもちまして「正雀駅前まちづくりを推進する会」の発起人会ということで4月以降ほぼ毎月のように行っております。

以前もちょうど1年前の当委員会にもご質問いただいたわけなんですけれども、正

雀駅前地区ということだけでなく、正雀地区全体を考えた中でまちづくり、また討論会等を進めていくべきではないかということをご質問いただきました。毎月行っているこの会議の中でもそういう議論が最近特に議論の中で集中しております。今、阪急正雀駅前まちづくり推進する会と言っていますけれども、特に駅前というこのネーミングを正雀まちづくりにすべきじゃないかと、やっぱり駅前ということでどうしても駅前の方だけになってしまうということで、市が当初考えていましたのは、先ほども説明しました中で、阪急京都線、それから正雀川、また正雀一津屋線の府道ということで12ヘクタールと言っていましたけれども、最近の議論の中で、正雀地区全体、ちょっと広いエリアなんですけれども、山田川、また安威川、正雀川と、阪急京都線なんですけど、そういう大きなエリアから考えていくべきではないかと。ただ、全体そういう議論の中でもやはりどうしても駅前ということが頭から離れないであろうと。それは全体のまちづくりの中で、そこは第1段階するところ、また重点地区ということの位置づけでそれは整備を進めていってはどうかという議論、またアドバイザーの先生のご意見もございました。

そんな中で、この4月から行っていますこの発起人会をこの議論の中で発起人会をいつとるのか、また今集まっていたいておられます17名の方でもって今後まちづくり研究会等の発足をしていこうとする中で、またアドバイザーの派遣、また、まちづくりについての講演等をそれぞれこの集まっていたいている方が主催をしてそういう講演、イベントをやっていこうとされておるんですけれども、まだ実はそこに至っておらない点が

あります。また、まとまっていたければまちづくりニュースを発行いたしまして、正雀全体の方、また正雀駅を利用される方に今まちづくりを推進する会の状況、まちづくりをしていかなければならない状況を周知できるのではないかと、こういうふうに思っております。

水口委員長 綾田委員。

綾田委員 今答弁いただきましたように、正雀駅前という言葉が地区ですか、これは非常に私も大いに賛成するところで、駅前言うたら非常に狭いんですね。だから、正雀地区まちづくり推進をする会というような形とか、全体的に考えられて僕もええと思います。

それと、推進する会ですね、各種の団体の方が入っておられると思うんですけど、今ご答弁いただきましたように、やはり関心のある方、積極的に私は協力すると、そういう関心のある方はどんどんそういう推進する会に入っていくということも僕は非常に重要だと思うんですね。そうせんとやっぱり地元の機運が上がってまいりますので、一部の方が勝手にやっとなじゃないかというようなところもいまだにまだありますので、とりあえずそういう関心のある方をどんどん推進する会に入っていくということも非常に重要やと思いますので、これはお願いしておきたいと思います。

それと、正雀地区全体を考えていったときに、やはり周辺整備が非常に大きな問題になってくると思うんですね。これがまたネックになってくるかわからへん。例えば十三高槻の問題、正雀一津屋線の拡幅の問題、それと阪急の高架の問題、そしてまた吹操までこれは絡んでくると思うんですね。その辺のところをきっちりと市としても、こういうような絡みが

ありますと、こういう整備をしていかななくては、なかなかこういうまちづくり推進をするのは非常に難しいですよということもやはりきっちりと説明していかないと、そんなん別にええねんと、そんなん別にほっといても正雀の地区はまちづくりはできるんやというような考え方をされている方もまたおられますし、だから、こういう大きな都市計画的な問題が絡んでおるといことは、これは市としても責任を持って、しいては千里丘のガードの拡幅、また竹ノ鼻のガードの拡幅云々まで発展しかねないところまで来ていると思うんですね。このごろ国にしても府にしても何かするとなったら非常に厳しい条件を言うてきているというふうに僕も思っているんですけど、だから、そういうところはきっちりとこの会に対して言うとかんと、案外安易に考えておられるところもあるんで、市としても非常にこういう問題がありますと、この辺のところをある程度クリアしていかないことには全体としてなかなか推進しにくいということは言うといほしいなと思うんです。非常に難しい問題ですけどね。当然吹操まで絡んでくると思うんです、正雀地区のまちづくりを考えたらね。その辺のところも頭に入れて市としてもきっちりとやるべきことは言うていただいて推進していただくようお願いしておきたいと思います。

水口委員長 ほかに。

辻委員。

辻委員 2点ほどお願いします。

まちづくりにつきまして、綾田委員への説明でよくわかったんですが、今後、阪急高架化と切り離してでもこのまちづくりを先行して取り組むのか、できるのか、その1点お聞かせいただきたいと思っています。

それから、協議会なんですけど、今、綾田委員の方もありましたけども、商売されている方自体いろんなさまざまな温度差があると思うんですけども、やはり大型店舗がこの3店できるということかなり危機感を抱いておられます。そんな声を聞く割にはまちづくりに対して積極的な意見も出てないというふうに思います。そういうことで幅広い意見を聞いていただいて活気のあるまちづくりのためにやはり希望の持てるような取り組みをしていただきたい。と同時に、17名の発起人はわかりませんが、やっぱり女性を、また年齢別に分けて発起人になっていただきたいなど。やはり今、周辺とおっしゃいましたが、消費者になる方々、かなり今の摂津の商店について、道路のアクセスとかいろんな形でご不満があるんです。そんなことをたびたび私も個々にはお願いもしてきましたけども、いろんな諸問題があってもなかなか解決してもらえない面がありまして、高齢者にとっては買い物に行きにくいということは、やはり周辺の方たちが駅前へ買い物等にも行けなくて、もうこのごろ車で吹田なり鳥飼なりに行っておられると。そんなことも聞いておりますので、できましたらその発起人の中にやっぱり日常利用される女性の声を聞けるようなそういう組織にさせていただきたいと思いますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

水口委員長 山脇都市政策課参事。

山脇都市政策課参事 1点目のまちづくりと阪急高架化と切り離してできるのかという点でございますけれども、事業だけをとらえますと、例えば阪急の高架をする際に当然今の本線から正雀側に仮線を設けなければなりません。そんな中で仮にまちづくりが進展しまして実態的

にこの事業が立ち上がってきた場合、その仮線とその事業とどう整合するのかということですけども、それは今後のまちづくりの進み方がどうなるのかちょっとわかりませんが、万が一、阪急高架化と整合するようであれば、それは仮線を正雀側に向けた場合、そこはまた側道として利用できますし、そこらのところは整合はとれていこうかと思ひます。

ただ、即事業とまちづくりということではなかなか理解してもらえないところがあるんですけども、まちづくりは最終的には上物また道路整備等の絵がどうしてもイメージ的に先行してしまうんですけども、そのための駅を利用される方、当然またそこには地権者、また住民、商売人さん、そこらのとこの方がうまく合意形成できた中で利用しやすい、利用されやすい、安心して利用されやすいような施設が、最終的にはまちづくりをされる中で、そういうイメージを抱いた中で、そういう事業に行くためのステップを踏んでいかれると思ひます。

そんな中で先ほど言いましただんだん発起人会がとれて、今のメンバーだけでなく、今は大体自治会長とか商店街の代表者の方が出られているんですけども、そういう推進会なり研究会になったら、そういう自治会長としてでなく、一駅を利用される住民の方、まちづくりに関心がある方ということで今度は参画されると思ひます。そんな中で当然ここは薫英学園もございませうし、星翔学園もございませうし、当然駅を利用される学生さんのご意見も踏まえた中でまちづくりを大きくされると思ひます。おっしゃっているように消費者の方も当然参画されると思ひます。多分ニュースを広域的にまかれるということで周知がなされると思ひますので、そこらのところで推進する

会から呼びかけられると思いますので、その時期がまだちょっと時間がかかろうかと思いますが、その点よろしく願います。

水口委員長 ほかに。

北川委員。

北川委員 先ほどちょっと辻委員もおっしゃいましたけど、今回、正雀地区に大型店の開店ということ、この特別委員会の所管じゃないんですけれども、そういうスーパーの大型店がその地域の中で開店するということは相当まちづくりに影響してくると思うんです。現実に千里丘にイズミヤができたときに、我々当時そこで商売していたときに、皆協同組合でイズミヤが来る来ん言うて大分検討したときに、当時の役員さん方は、いい景気のとこでしたから、「イズミヤが来たって絶対に影響しないと、千里丘は大丈夫」と言っていました。それで、当時私ら若かったから余りそういう意見を言う機会がなかったんですが、そうじゃないと私らは思いました。イズミヤのところまで3坪でも土地買って何かせいへんかと言ったぐらいに影響するだろうということは早うからわかっていたんです。ところが、当時のお年寄りの連中たちが、そんなもん大丈夫やということで、3年もせんうちにつぶれようと言っていたのが今どうなりましたか、これが動線なんですよ、人の。だから、今回の正雀でも言えるのは、このオープンされる云々のとこが今の中に入っているのか入っていないかよく知りませんけれども、入っていないとしても人の流れは絶対に変わりますね。そういうときにまちづくりの中で、今もおっしゃっているように、駅前だけにこだわらず正雀地域を含めてのまちづくりを考えていこう、そういうときには必ず問題になってくると思うんです。だから、

今のオープンがどのようなまちをつくらうとするのか、人なんて本当にもうくると変わってしまわれたら動線は向こうへ行ってしまう。もう今、千里丘がそうでしょう。そういうことが現実にあると思います。だから、その辺のところはどうお考えになっているのか、まちづくりとしてどうなのかということをお聞かせいただきたいと思います。

水口委員長 北野都市整備部次長。

北野都市整備部次長 大型店の出店の件でございますが、正雀地区におきましては、当然今現在その予定地につきましては、区域内として今現在考えておるところでございます。しかしながら、その大型店の進出に伴いましていろいろと店舗規制法に基づきまして、今後、環境問題とか交通問題等につきましては、当然行政がいわゆる介入していくと、またそういう協議を行っていくというふうな内容にもなっておりますし、このような観点から、我々としてもその大型店についてのいわゆる出店につきましては十分考えていかざるを得んだろうと。

しかし、今、現況の正雀一津屋線は今でもいわゆる渋滞等が発生いたしております、さらにその十三高槻線が開通する中で非常に正雀一津屋線が混雑するというのは目に見えているような状況でございます。しかし、その大型店を実際出店部分につきましてやはり行政がとめれるかという問題がございます。しかしながら、非常に難しい問題もございまして、今後、我々行政に携わる者としても、やはりそういう交通問題も十分考慮しながら、出店の問題につきましても考えていきたいなというふうに思っております。

水口委員長 北川委員。

北川委員 今回また法改正がありまして、大型店出店に対する規制緩和、こう



いう中でやはりそれぞれの地域での今おっしゃった交通アクセスの問題、環境問題がいかにかかわりになってくるかということが大きな問題になってくると思うので、その辺は地元の皆さん方の協議の中にも十分取り入れていただき、また今予定されている事業者の方にも、そういうところは常にやっぱり協議をする機会を持ちながら、やはりまちづくりとしてその店がこの方に来ることによってまちがどう変わるのか、その影響度ということを十分事前に協議をしていただきたい。

そして、何も出店されるのが反対とかそういう意味ではないんですけど、またそれがまちづくりに対して活性化されるならば、またそれもいいだろうと。お互いに共存共栄を願いながらのまちづくりをしていかないと、さっきの例で言いましたように取り残されてしまった旧の商店街というのはみじめなものだということをはっきりしているわけです。時代の流れというものは阻止できませんので、そういうことも踏まえて今後十分協議していただきたいということを一応これは要望しておきます。

水口委員長 ほかに。

野口委員。

野口委員 今出されたライフの出店問題ですけど、呼びかけ人会の中でまちづくりを考える区域についてもっと大規模にすることも検討すべきじゃないかという意見の反映もありますけども、千里丘駅もそうですし、正雀駅周辺も今後例えば15年とか20年、30年単位で考えたら、いろんな上位計画もありますし、そういうもろもろの問題を想定しながら、どういうまちをつくっていくのかということが今の行政に問われている基本的な問題だと思うんです。それに加えて今、ライフの問題もそうですけども、大店法

が今年度行われる国会に多分提案されて、2000年から、いわゆる商業調整機能を省いて生活環境問題を中心にした規制を出店市町村に与えるという方向に変わるだろうと思いますけども、そういう中でライフなんかは大阪府下で500メートル単位で出店していくというのは基本的な戦略ですから、建ててあかんやったらもう削ればかまわないということで方針上は言っていますので、この間のコンビニだとかさまざまな出店の状況を見ますと、さらにそのことが加速されると。不況ですけども、大型店はどんどんその中でいわゆる地元商店を食って、言葉は悪いですけども、出店させていくという傾向は僕は強まってくるだろうと思うんです。その中で淘汰もされていくという新しいそういう要因も加わってきますし、だから早急にそういう事態になってもそのまちにとって大型店はどういう役割を果たしていただくのかと。これはあきません、これはいいですよとか論議できるような材料を持たなければ勝負できないわけで、そういう点では、将来的な計画も含めてさまざまな要因について、行政として今どういう基本的な視点を持つべきかという点での調査研究もぜひ行っていただきたいと、これが一つの要望です。

二つ目は、具体的な問題でライフの問題ですけど、ちょっと係が違いますので僕も言いにくいんですけども、いわゆる今の摂津市の条例上からすれば、500メートル未満までは一応中身は制約されていますけども、一定のかかわりが持てると。国の法律の改正の方向づけも生活環境問題を中心にしてそういう方向ですから、そういう部分でしかかかわりないとかじゃなくて、いろいろ今の法律上地元自治体として、法律を超える部分になりますけども、地元の皆さんが今いろん

な論議をされています。賛成の方も反対の方もいらっしゃいます。この機会に店を閉めて新しいところを選択しようという方もあります。いろんな方々が今ありますけども、そういう中で自治体として、担当は違いますので言いにくいんですけども、要は計画というのは道路をつくるとか建物をつくるだけじゃないんです。そこで生かされている人材をいかに活用するのかと、人の輪をいかに地域としてまとめていくのか、これ最大のポイントです。そういう立場から言うているわけですけども、だから、交通渋滞の問題、騒音の問題、ごみ問題だとか、そういう生活環境面でしかかわりませんよという立場じゃなくて、担当課と相談してもらいながら、その辺の違った意味でのかわり方ができないものかと。当然例えば出店する側から言いますと、それはもう自治体関係ないということがその局面局面であろうかもわかりませんが、そういうことも想定しながら努力をしていただきたいということで二つ目もちょっとお願いにしておきます。

水口委員長 ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

水口委員長 本件につきましてこれで終わり、本委員会を閉会します。

(午前11時29分 閉会)

委員会条例第29条第1項の規定により署名する。

駅前再開発特別委員長 水口初子

駅前再開発特別委員 阿部賞久